

## 日勝圏から確認されたニホンザリガニ

山川 雄大<sup>1)</sup>

キーワード：ニホンザリガニ、日勝圏、えりも町、広尾町、貧栄養湖、清流、絶滅危惧種

## 1. はじめに

ニホンザリガニ *Cambaroides japonicus* (de Haan) は甲殻綱十脚目ザリガニ科に属する日本特産の淡水エビ類で、北海道と、青森・秋田・岩手の三県の一部に分布し、河川上流域や水質の澄명한湖沼に見られ、古くは道内では「ザリガニ」と言えば本種を指すほどよく知られた種類であったが、河川改修や水質汚濁、道路工事、河畔林の乱伐などにより近年では各地で激減している。

## 2. 採捕記録

筆者は日勝圏のえりも町から2例、広尾町から2例本種を記録しているので報告する。

①幌泉郡えりも町猿留（豊似湖：国土地理院標準地域メッシュNo.6343-12-01）. 2exs. 5. VIII. 1997. 体長4~5 cm. 体重未計測（※標本は現在漬液蒸発により廃棄）。

豊似湖はV字谷が土砂で堰き止められて形成された堰止湖で、標高310m、面積0.03 km<sup>2</sup>、最大深度18.6m、透明度16.9m（大木、2000）。湖水の栄養型区分は貧栄養型で水中には隠れ場所ともなる岩石も多く、ニホンザリガニの生息に好適であると考えられ、事実ニホンザリガニの生息密度も非常に高く、本種の多産地として知られていた。

豊似湖で認められた本種はすべて茶褐色系で、赤褐色や青灰色の個体（稀に見られる）は全く見当たらなかった。なお同湖には近年肉食性の外来魚ブラウントラウト *Salmo trutta* (Linnaeus) が持ち込まれ、彼らに食害されるニホンザリガニも多いという（自然環境研究センター、

2008）。さらに、駆除されたとは言え、同湖に放流されたミシシippアカミミガメ *Trachemys scripta elegans* (Weid) によってニホンザリガニが食害されていた事例（中岡・大原・高木・中田、2018）もある。

②幌泉郡えりも町境浜（ビタタヌンケ川水系ビタタヌンケ川：6343-12-86）. 1ex. 11. VIII. 1996. 体長28.9 mm、体重0.9 g（※標本は現在漬液蒸発により廃棄）。

河川型区分 Bb 型から得られた。体色は茶褐色。

ビタタヌンケ川は小規模河川ながらかつてはニホンザリガニの生息数も多く、大小さまざまな個体が見られたが、当日は採捕した個体以外は見当たらなかった。

③広尾郡広尾町ルベシベツ（6343-22-46）. 1ex（轢死体）. 24. IX. 2017. 体長約5 cm. 体重不明。

路上で自動車に轢かれ圧潰した個体を目撃した。体色は茶褐色系（死後時間が経過したらしく赤っぽくなっていた）。最寄りの河川はルベシベツ川水系ルベシベツ川で、河口近くではごく短い区間内で Aa 型、Aa-Bb 移行型、Bb 型が認められるが、ニホンザリガニを目撃した地点は両岸が護岸され、這い上がることはほとんど不可能なので、何者かによって陸に上げられたものと推測される。

④広尾郡広尾町上豊似（豊似川水系フントクシュンナイ川：6343-40-58?）. 2exs. 10. VIII. 1998. 体長50.9 mm、33.9 mm. 体重4.5g、1.2g。

河川型区分 Aa-Bb 移行型の区間から採捕した。体色は両個体とも暗褐色である。同地点からは捕獲個体とは別に抱卵している体長5 cmほどの♀1個体を確認している。体色は同様に暗褐色であった。

このほか日勝圏からはいささか遠ざかるが、

1) 北海道淡水生物研究室 日勝分室

筆者はこれまでに未記録であったと思われる幕別町と池田町からも本種を各1例ずつ確認しているのので、併せて報告する。

⑤ 中川郡幕別町中里（十勝川水系糠内川：6443-02-65）. 1ex. 15. IX. 1995. 体長 20.6 mm. 体重 0.2g.

河川型区分 Bb 型の区間から得られた。体色は未成熟個体であるためか薄い茶褐色であった。

⑥ 中川郡池田町十日（十勝川水系十日川：6443-43-21）. 1ex. 28. VIII. 1999. 体長 14.4 mm. 体重 0.1g.

河川型区分 Aa-Bb 移行型の細流から得られた。幕別町の個体と同様未成熟で、体色も薄い茶褐色であった。

### 3. 今後の予想と課題

日勝圏は日高山脈が海岸のすぐ近くまで迫っているため諸河川はすべて中・小規模河川で勾配が大きく、急流で水質も清冽である。したがってほとんどの河川にニホンザリガニが生息している可能性があり、今後詳細な調査が待たれるところである。

本種は河川の本流以外にも、細い沢や崖下の湧き水が貯まった水域などにもよく見られる傾向がある。しかしそのような水域は道路工事や森林伐採などの影響を受けやすく、ニホンザリガニは特にそうした営為によって生息域が奪われ追い詰められやすいので、早急に他の生物や生息環境も含めた生息状況の調査が進められるべきであろう。

### 4. 参考文献

三宅貞祥（1983）学研生物図鑑 水生動物（内海富士夫編）（学習研究社）  
稗田一俊（1984）北海道の淡水魚（北海道新聞社）  
今村泰二（1996）淡水生物の世界（近代文芸社）  
森 文俊・内山りゅう・山崎浩二（2000）ヤマケイポケットガイド⑱・淡水魚（山と溪谷社）

山崎浩二（2008）淡水産エビ・カニハンドブック（文一総合出版）

三谷英生・荒井 正・宗形 康・高橋尚樹・山田智子・河津結実・河合佐知子（編）（2002）週刊日本の天然記念物・動物編 10 ニホンザリガニ（小学館）

林 浩之（1993）十勝大百科事典（十勝大百科事典刊行会編）（北海道新聞社）

大木隆志（2000）北海道・湖沼と湿原 水辺の散歩（北海道新聞社）

中田和義・石川慎也・倉澤栄一・中岡利泰（2004）北海道豊似湖におけるニホンザリガニの繁殖生態. えりも研究(1):1-6.

中岡利泰・大原昌宏・高木大稔・中田和義（2018）北海道えりも町豊似湖で捕獲されたミシシッピアカミミガメ *Trachemys scripta elegans* の生態系への影響と今後の対策について. えりも研究(15):23-32.

中岡利泰（2019）ニホンザリガニの捕食行動の事例と保護保全（短報）. えりも研究(16):13-14.

多紀保彦（監修）・財団法人自然環境研究センター（2008）決定版 日本の外来生物（平凡社）  
尼岡邦夫・仲谷一宏・矢部 衛（2011）北海道の全魚類図鑑（北海道新聞社）

向高世・李鵬翔・楊懿如（2009）台湾両棲爬行類圖鑑（貓頭鷹出版）

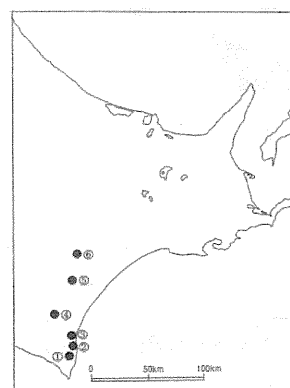


図1. ニホンザリガニ確認地点（●印）

- ①えりも町猿留（豊似湖） ②えりも町境浜  
③広尾町ルベシベツ ④広尾町上豊似  
⑤幕別町中里 ⑥池田町十日

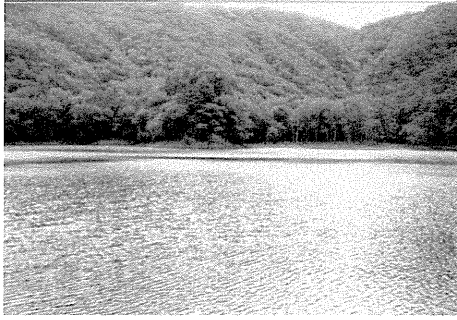


写真1. 豊似湖

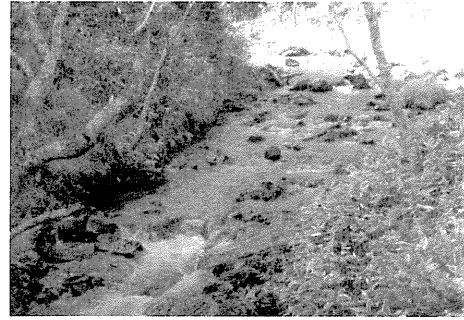


写真5. ルベシベツ川

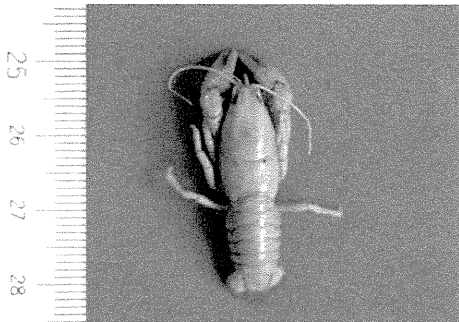


写真2. ビタタヌンケ川産 (液漬)

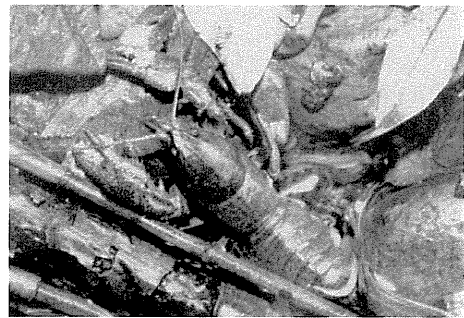


写真6. フントクシュンナイ川産♀



写真3. ビタタヌンケ川



写真7. フントクシュンナイ川



写真4. ルベシベツ産 (轆死体)

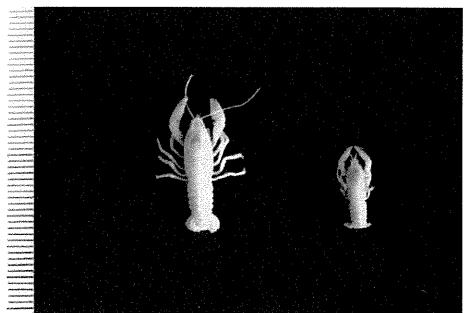


写真8. 糠内川産 (左)・十日川産 (右) (液漬)

